

その7

第6章 肉体的武器 – 呪文

ライアンがスピリチュアルなものに触れたのは、オカルトが根底にあったからでした。彼の母親と父親は、タロットカードやウイジャボード（西洋版こっくりさん）、交霊術などのオカルトに手を出していた。

母親は、占星術や星占い、ニューエイジ・スピリチュアリティに関する本を熱心に読んでいました。

ライアンの両親は、決して家族の中でこの分野の先駆者であったわけではありません。

母方の祖母は魔女の高位聖職者であることを誇りにしていたし、ライアンは彼の曾祖父を知らないが、祖父の跡を継いだ父から同じような修行をしていたことを聞いていた。

合計すると、ライアンの家族の中には、スピリチュアリズム、占い、占星術、オカルトなど、何らかの形で関わっている人が10人近くいたことになります。

ライアンは、大学に入学してルームメイトの福音主義キリスト教徒のマークに出会うまで、聖書を真剣に読んでいる人、ましてや熱心に聖書を読み、聖書研究会に参加している人には会ったことがありませんでした。

マークとライアンは、霊的な現実、霊的存在、オカルト、そしてキリスト教の信仰について長い間議論を交わすようになりました。

マークと一緒に10回近く聖書の勉強会に参加し、マークの牧師とランチタイムに長い時間話し合った後、ライアンは自分には救い主が必要だと確信した。

ライアンは、自分の罪の重さと赦しの必要性を知り、自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを救い主、主として受け入れました。

ライアンの行動や考え方には、すぐに大きな変化が現れました。ライアンは、これまでの人生で何もなかったように、聖書に飢えていました。

ライアンは、まるで光が差し込んだかのように、両親の活動の背後にある霊的な存在の恐ろしさを目の当たりにしたのです。

ライアンは、自分の両親だけでなく、家族の中にもオカルトに関わっている人がいることを知り、迷い、惑わされている状態を嘆いていました。

週に一度の聖書の学びの場で、あるクリスチャンが「自分は両親から悪魔を受け継いでいるのではないか」と言っているのを聞いて、ライアンの不安は恐怖に変わりました。

そのクリスチャンは、両親の魔術の罪のために、ライアンとその子供たちに神の罰が下ると説明し、ライアンが両親の罪と悪魔を明確に放棄しない限り、サタンの影響が何世代にもわたって続くことになると言いました。

自分だけでなく、未来の子供たちを守るために、ライアンは何世代にもわたってオカルト的な習慣によって一族に定着したと思われる悪魔に直接、具体的に対処することを勧められました。

このような話に心当たりはありますか？

霊的戦いについて、このような教えを受けたことはありませんか？

罪や悪霊や呪いから解放されるためには、言葉で放棄しなければならないのですか？

神は、親の罪のために子供（信者になった人も含む）を罰するのですか。

人は悪魔を受け継ぐことができますか。

オカルト的な背景から救われた人が、悪魔の影響を受けないようにするために、さらに神の働きが必要なのでしょうか。

神は親の罪を三世代、四世代に渡って子に負わせる」とありますが、これはどういう意味でしょうか（出エジプト記20：5）。

この種の教えに触れたことのある人から、よくこのような質問を受けます。

このような教えは、多くのキリスト教界で盛んに行われています。

これらの質問に答えることは、私たちが集中的に注意を払うべきことです。

この教えは、一般的に「世代の呪い」や「世代の罪」と呼ばれ、サタンを縛ることや、クリスチャンであっても悪魔祓いを行うこと、領土を持つ霊に対して祈ることなど、より大きな霊的戦いの神学の一部です。

世代の罪や世代の呪いを放棄する習慣は、出エジプト記20章5節に基づいています。

「...あなたがたの神、主であるわたしは、ねたみの神であり、父の咎を子に、わたしを憎む者の三代、四代にまで負わせる。」

この聖句を使って、神は親の罪のために子供を罰すると教える人もいます。

また、さらに進んで、親の罪のために、人は呪いを受けることがあると教える人もいます。

呪いは断固として放棄し、戦わなければなりません。

さらには、両親が魔術や偶像崇拜の罪に関わっていた場合、子供は実際に両親から悪魔を受け継ぐ可

能性があると説く人もいます。

クリスチャンが意識的に言葉で先祖の罪を告白し、それらの罪とそれに伴うすべての呪いと結果を放棄しない限り、サタンはその信者の人生に「法的な支配」を及ぼし、その信者を霊的なものから遠ざけてしまうと信じられています。

自由、聖潔、霊的成長、そして神の祝福を得ることができます。

このような「法的拘束」は、クリスチャンに対する悪魔の抑圧、さらには悪魔の憑依をもたらします。

養子縁組の危険性はよく言われていますが、それは悪霊が血統を通じて移ってくると考えられているからで、無防備なクリスチャンの家庭にアクセスすることができるからです。

マーク・ブーベックは、その著書「The Adversary」の中で、養子に悪魔が取り付く危険性について述べた後、「放棄と肯定」の祈りを推奨しています。

主イエス・キリストの血によって買い取られた神の子として、私は今ここで、私の先祖のすべての罪を放棄し、否認します。

闇の力から解放され、神の親愛なる御子の王国に移された者として、私は先祖から受け継いだすべての悪魔の働きを取り消します。イエス・キリストと共に十字架につけられ、命の新しさの中で歩むためによみがえらされた者として、私にかけられていたあらゆる呪いを取り消します。キリストが十字架にかかったとき、私のために呪いとなってくださったことを、サタンとそのすべての力に告げます。キリストと共に十字架にかけられ、よみがえり、今は天の場所でキリストと共に座っている者として、サタンが私の所有権を主張するあらゆる方法を放棄します。

私は、自分が永遠に完全に主イエス・キリストに署名し、委ねられていることを宣言します。これらすべてのことを、主イエス・キリストの名と権威において行います。

ブーベックは次のように述べています。「私たちは誰も、自分の先祖からどんなサタンの働きが受け継がれているかを知りません。それゆえ、神の子であるすべての人が、上記の放棄と断言をするのがよいでしょう。声に出して言うことをお勧めします。」

養子や里子のための特別な祈りは、どんな状況にも対応できるように、この注意書きとともに、はるかに広範囲にわたるものです。

「このタイプの放棄と肯定は、養子のための祈りの一環としてよく行われるべきものです。」

このような定型的な祈りは、マーク・ブーベックに限ったことではありません。

これはマーク・ブーベックに限ったことではなく、人気作家のニール・T・アンダーソンの著書にも多く見られます。

アンダーソン 自由への最後のステップは、先祖の罪や自分にかけてきた呪いを放棄することです。

...もし放棄せず、キリストにあるあなたの新しい霊的遺産を宣言しなければ、馴染みの霊は世代から世代へと受け継がれていきます。

あなたは先祖の罪のために罪を犯しているわけではありませんが、先祖の罪のために、サタンがあなたの家族にアクセスしているのです。

さらに、惑わされた人々があなたを呪ったり、悪魔のグループがあなたを狙ったりするかもしれません。

アンダーソンは、かつて不信心者が住んでいたかもしれないアパートや家を浄化するための公式の祈りを提案しています。

この聖書に反する教えを論理的に帰結させるために、アンダーソン氏は読者に次のような重荷を背負わせています：

「養子は実の親を持つがゆえに、特に悪魔の要塞の影響を受けやすい。しかし、養子であっても新しい創造物になることができます」

トーマス・B・ホワイトは、その著書『The Believer's Guide to Spiritual Warfare』の「世代の罪」という項目で、「解放の経験がある人は、何世代にもわたって家系の中で働く悪霊の力があることを知っている。

この現象は臨床的にも記録されています ... 罪が発生した場合、特に偶像礼拝や魔術に関する罪が未解決のままであれば、敵は告発し、抑圧する法的権利を持っています。

私たちは、系譜上の罪と現在の世代での抑圧との間に関連性があることを観察しています。このような例を数え上げればきりがありません。

キリスト教というよりも、ギリシャやペルシャの神秘的な宗教と共通点のあるグリッドを通して、「精神世界」を見始めている新世代のクリスチャン」がいることを理解するのは難しくありません。

確かに!いつからキリスト教は、ハリー・ポッターの小説のセリフのようになったのでしょうか?

出エジプト記20章の文脈上の祈りを読むと、聖書から直接出てきた言葉に気づくでしょう。

「私はキリストとともに十字架につけられました」「神の愛する御子の王国に移されました」などで。ガラテヤ人への手紙2：20、コロサイ人への手紙1：13）。

聖書から引用されている言葉もあるかもしれませんが、全体的な神学が聖書に基づいているとは限りません。

聖書は、悪魔や呪いが血統によって受け継がれることを教えていますか?

私たちは悪魔や呪いを受け継ぐことができますか?

神の子がサタンから解放されたり、保護されたりするためには、これらの呪いを言葉で、力強く、繰り返し放棄しなければならないのでしょうか？

この神学の要となる聖句は出エジプト記20章5節で、この実践を支持するために常に引用されています。

私は、文脈全体が引用されることはほとんどなく、さらに理解されることも少ないことに気づきました。

あなたは自分のために偶像を作ってはならない。また、上の天にあるもの、下の地にあるもの、地の下の水にあるものを模したものを作ってはならない。なぜなら、あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神であり、父の咎を子に、わたしを憎む者の三代、四代に負わせるが、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千もの者に慈しみを示すからである（出エジプト記 20：4-6）。

5節の下線部は、通常、文脈から切り離されて、神を憎む者の子孫には、4代目に至るまで、神が罰と呪いを与えることを教えるために使われます。興味深いことに、そして最も重要なことは、霊的戦いの教師が5節の意味を説明する際に、6節がほとんど無視されているという事実です。そして、6節は独立した段落でもなく、独立した文章でもありません。6節は5節の文の残りの部分です。この箇所を注意深く見てみると、現代の「世代の呪い」の教えとは全く関係がないことがわかります。

まず、5節と6節の間には明らかな平行線があり、これはこの箇所の意味を理解する上で重要です。

5節「不義を訪ねる」6節「慈しみを示す」

5節「四代まで」6節「千代まで」

5節「神を憎む者たち」6節「神の戒めを守る者たち」

このヘブライ語の平行線は、神の2つの行動、2つの世代数、2つの人々のグループを対比させています。

対照的な2つのグループは、「わたし（神）を憎む者たち」と「わたし（神）の戒めを守る者たち」です。”対比されている2つの世代の数は、「3世代目と4世代目」と「数千」です。”神の2つの行動は、「不義を見直す」と「慈しみを示す」です。

“この文章には、何も難しいことはありません。これは、比較したり、あるものを他のものよりも好むことを表現するために使われるユダヤ人の文学的な装置です。

神は、自分を憎む者が3、4世代にわたって呪われるよりも、自分を愛する者が1000世代にわたって祝福されることを望んでおられます。

主は、ご自分の戒めを守る者を祝福することを好まれます。

Psalm 30 : 5は比較並行法がまた使われている例です。

「主の怒りは一瞬で、主の好意は一生のものです。」

泣くのは夜の間続くが、朝には喜びの声になる。

神の好意の豊かさと永続的な祝福は、神の怒りと対比されて強調されます。

申命記7章では、順序は逆になりますが、同じことが表現されています。

あなたの神、主は神であり、忠実な神である。

「主を愛し、主の戒めを守る者との契約と慈しみとを千代にまで保ち、主を憎む者にはその顔に報いて滅ぼす。」

これは出エジプト記20章で表現されていることと同じであり、祝福し、慈しみを示すことが神の好みであり、性質であることを示しています。

第二に、5節で罰せられた者が「義人」や「信者」であるとは考えられません。

最も自然な解釈は、神は自分を憎む者に状況的な罰を与えるということです。

罰せられるのは、神を憎む先祖から生まれた義なる子孫であると考えべきではありません。

それよりも、旧約聖書の他の部分からの教えに沿って、たとえ三代目、四代目であっても、罰せられるのは、背教者である親の跡を継いだ、神を憎む偶像崇拝者であると考えの方が、より理にかなっていると思います。

第三に、靈的戦いの教師たちの解釈は、一貫して適用されるものではありません。

彼らは、5節では、先祖の罪や活動のために、呪いや悪霊が3、4世代にわたって子供に移ることがあると教えていると言います。

しかし、彼らは一貫して6節を同じようには考えません。彼らはまた、一人の先祖の義のために、彼らの個人的で持続的な罪にもかかわらず、神が千代に渡って祝福するとでも言うのでしょうか？

しかし、一貫性を保つためには、これを肯定しなければなりません。6節では、神の戒めを守った者のために、神は千代に渡って慈しみを示されるとあります。

クリスチャンが、父、祖父、曾祖父の放棄していない罪のために罰せられ、苦しむことができるなら、不信心な子孫は、597世代前の正しい祖先のために祝福されるのでしょうか？

絶対にありません。

第四に、アンダーソン氏や他の人々が提案しているような、悪魔や悪霊、あるいは呪いについての言及が全くないことに気付きます。

この箇所では、悪魔の砦や霊的戦い、呪いを放棄する方法などではなく、十戒について書かれていますが、それは霊ではなく、罪とその結果としての罰です。

霊ではなく、罪とその結果としての罰です。

この箇所の何かを取り上げて、悪魔や世代間の呪いに関する神学を構築することは、想像を絶する正当化されないことです。

第五に、聖書は一貫して、人は自分の罪のために罰せられるのであって、他の人の罪のために罰せられるのではないと教えています。

エゼキエル書18章は、この問題についての重要な箇所です。エゼキエルの時代の人々は、「父は酸っぱいぶどうを食べ、子は歯ぎしりする」（18:2）ということわざを引用した。

彼らは、父親が罪を犯しても、子供はそれによって呪われたり、罰せられたりすると（間違って）信じていたようです。エゼキエルは32節を費やしてこの教えに反論し、「罪を犯す魂は死ぬ」（18:4）ことを示しました。

現代の「世代間の呪い」の教師とは対照的に、エゼキエルは、「罪を犯した者は死ぬ」と断言しています。

息子は父の不義のために罰を受けず、父は息子の不義のために罰を受けない。

「正しい者の正義は自分の上であり、悪い者の悪事は自分の上にある」（エゼキエル 18:20）。

問題は山積みです。アンダーソン氏は、教会の歴史の中で同じような例を挙げて、自分の実践が正当なものであることを示そうとしています。

初代教会は、公の信仰宣言の中で「サタンよ、あなたのすべての働きと方法を放棄します。」

カトリック教会、東方正教会、その他の多くの典礼教会では、今でも確認書の一部としてこの放棄を要求しています。

何らかの理由で、ほとんどの福音主義的な教会では、この放棄を要求していません。

何らかの理由で、ほとんどの福音主義教会から消えてしまっています。

あなたは真実を選ぶだけでなく、サタンとその嘘を否定しなければなりません。

福音主義からこの習慣が消えた理由は、明らかに非聖書的だからです。文脈を無視した聖句の引用や、その聖句の乱用が横行していること以外にも、この神学には無数の問題があります。

まず、私が最も不愉快だと思うことから始めます。

第一に、この神学は、十字架、贖罪、福音の充足性を否定しています。

これは最も深刻で、かつこれらの教義を教えている人々が広めている微妙な誤りです。

彼らは、実際には十字架の力と福音の充足を信じていると声高に、そして力強く断言しますが、彼らの実践はこれらのことを明らかに否定しています。

明らかに、一度だけ罪の生活から悔い改め、キリストの血で清められ、過去、現在、未来のすべての罪が赦されても、それだけでは罪とサタンの力への束縛から解放されるには十分ではありません。

つまり、聖霊が思い起こさせるすべての罪を口に出して断罪することが必要です。

サタンの力を打ち破り、その砦を取り除くために、つまりサタンの「法的権利」を無効にするために、断罪の祈りが語られなければなりません。

聖書によると、イエス・キリストを信頼して救われた人は、暗闇の王国から解放され、死の力を持つ者、すなわち悪魔から自由になったとあります（コロサイ1：13、ヘブル2：14～18）。

神の子は、神の家族に採用され、生ける神の御霊に抱かれています。

福音は彼を自由に、完全に、そして永遠に義としました。

福音以外に必要なものがあると考え、キリストの十字架の御業の充足感を冒瀆するものです。

これらの放棄と肯定の祈りは、聖書がキリストの死によってすでに達成され、信者のために確保されていると述べていることを、疑惑的に達成するものです。

その解放を実現するために、私に代わってさらなる「働き」をする必要はありません。

クリスチャンがキリストにあるならば、彼は新しく造られた者です。

すべての古いものは過ぎ去ったのです。

期間

サタンが言葉で具体的に放棄しない限り、サタンは私の家族、財産、人生に対して「法的要求」を持ち続けると言うことは、キリストの働きによってその「要求」が破られなかったと言うことです（ただし、これまで見てきたように、その「法的要求」の考え方は最初から疑わしいものです）。

もし、キリストの中でサタンからの自由が確保されないのであれば、キリストの中にいることの意義は何でしょうか？

もし、私がさらに継続的に罪や呪いを放棄し、呪文のような祈りで周囲のサタンの要塞を清めなければならぬとしたら、キリストの御業は実際に何の役に立つのでしょうか？

第二に、この神学は聖書の充足性を攻撃するものです。

アンダーソンやブーベックなどが提供した祈りは、聖書を探しても無駄だと思います。

呪いの放棄、養子の保護、家やアパートやホテルの部屋の浄化、夢の中のサタンを束縛する祈りなどはありません。

サタンの主張を取り消すための祈り、悪魔の呪いを取り消すための祈り、世代や血筋による悪魔の影響を取り消すための祈りはありません。

一つもありません。

そのような例が見当たらないだけでなく、そのような祈りをするように言われたこともありません。

アイスとディーンが指摘しているように、「実際、救われた人が悪魔の呪いを受けていて、それをキリスト教の悪魔祓いや明確な告白によって解かなければならなかったという例は、聖書全体の一つもありません」。[13]

霊的戦いの教師たちが提供する呪文、祈り、公式がなければ、私たちはどれほど備えのない者になっていたかと考えさせられます。

それらは必要不可欠であると言われていますが、聖書には見当たらず、「霊的戦いの専門家」の本の中にしかありません。

それらの本がなければ、数え切れないほど多くの人々が、サタンとその世代の悪魔と呪いに縛られた人生を送ることになるでしょう。

想像してみてください。アンダーソン氏は次のように主張しています。

「過去から完全に解放されるためには、各人が参加したすべての偽りの宗教、偽りの教師、偽りの実践、および偽りの指導手段を明確に放棄する必要があることがわかりました」。[14]

私の意見では、これは信じられないほどの傲慢さを示しています。

それは意図しないものかもしれませんが、それにもかかわらず、思い上がりです。

誰かが、私たちの聖化と解放のために、聖書の外にあるもの、つまり、聖書に命じられていないもの、図示されていないものが必要だと教えるとき、その人は、聖書だけでは不十分だと言っているのです。

彼は暗に、神がキリストにある私たちの人生に必要な情報を提供することを怠ったと主張しているのです。

心配しないで！

私たちは、聖霊が見落としていた情報を提供してくれたアンダーソンに感謝しなければ。

第三に、この神学は自由ではなく、束縛につながります。

霊的戦いの教師たちは、この教えが人々を自由にするのに役立つと言いますが、「それどころか、サタンがあらゆる面で存在するだけでなく、それらの面の一つ一つで繰り返し放棄しなければサタンに支配されてしまうという迷信的な世界観に縛られてしまうのです。」^{15]}

クリスチャンは知らず知らずのうちに、霊的戦いの分野で異教的、神秘的、ブドゥー・マジック的な世界観を採用しています。

彼らは、自分や自分の持ち物、家族に対するサタンの力、呪い、影響、存在、主張を常に恐れるように勧められています。

呪文を唱えたり、定型的な祈りをしたり、常に放棄したりしなければ、自由になることは望めず、明らかに聖書に反する世界観や天使と悪魔の神学に縛られることになります。

第四に、これは世界中の養子に対する侮辱です。

養子が、十字架では得られない特別な配慮を必要とする「血統の呪い」を背負っているかもしれないという、聖書に基づかない不当な恐れを養子の親に負わせることは、何よりも残酷なことです。

世代間の呪い、世代間の罪、放棄の祈り、呪い、呪いの神学は、完全に聖書に反するものです。

十字架は、あなたの救い、義認、解放、聖化、栄化、そして暗闇の王国からの完全な自由を保証しました。

キリストにある者は解放されます。以上！

キリストを公言し、受け入れたあなたは、何も放棄する必要はありません。

あなたはキリストの中で新しく、完全なものとなったのです。

恐れずにそれに安住してください。